

しゅんぎく

名前の通り、菊の一種です。地中海沿岸原産で、東アジアのみで食用とされています。関西など地方によっては菊菜（きくな）とも呼ばれています。カロテンの含有量はホウレンソウ以上と、緑黄色野菜の中でも抜群です。

8月の農作業

平成15年発行：
JAハリマ「活き活き健康野菜づくり」より

作型

冬季はビニールトンネルを利用して品質のよいものを収穫する。古い種は発芽率が悪いので、新しい種子を使い、多めにまいて間引きする。

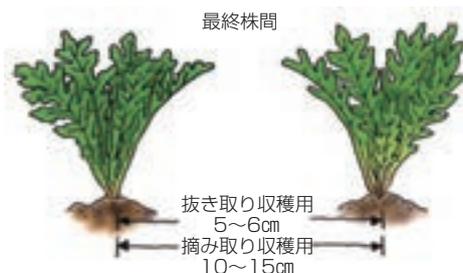
	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	品 種 名
秋まき									○	○	■	■	株張型（抜き取り収穫用） 摘み取り型（摘み取り収穫用） 中葉春菊、おびつ春菊

○：種まき ■：収穫

畑の準備・定植

土づくり a当たり	
堆肥	300kg
セルカ(有機石灰)	10kg
植え付け1ヶ月前に土と良く混合	
元肥 a当たり	
油粕	10kg
畝立時施用	

- 畝幅100～150cm
- 株張型：5～9条
- 摘取型：4～6条
- 薄く覆土（1cm程度）後、鎮圧する。
- 発芽がそろうまでに時間がかかるので、乾燥しないよう灌水するか、切りわらをかける。



間引き・追肥

- 本葉1～2枚時：株間3～4cmに間引く
- 本葉7～8枚時：株間5～6cm間隔に間引き（摘取種は10～15cm）、追肥を行う。
- 摘取種の第1回収穫後、追肥する。（生育が順調なら追肥の必要がないが、葉色が黄色い時は追肥する）
（追肥の量：それぞれ野菜専用肥料5kg/a）

防寒対策

- 冬期間の栽培は11月下旬を目安にトンネル被覆する。（日中高温になりすぎないように換気に注意する）



防除

病害虫名	耕種防除	薬剤防除
炭そ病	排水を良くする 雨よけ栽培をする	ストロビーフロアブル 3,000倍 収穫14日前まで 3回以内
アブラムシ	光反射テープをはる 寒冷紗で飛来を防止する	スタークル顆粒水溶剤 3,000倍 収穫前日まで 2回以内

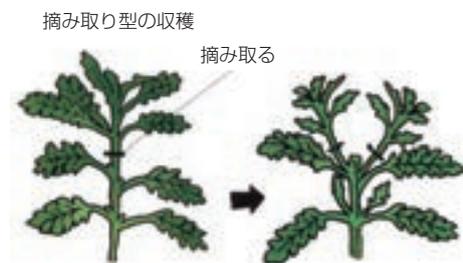
収穫

株張型（抜き取り収穫用）

- 本葉7～8枚、草丈15cm位になったら順次間引き収穫すると品質のよいものが得られる。
- 取り遅れないように注意する

摘み取り型（摘み取り収穫用）

- 摘み取り位置を低くしすぎない方が長く収穫できる。
- 本葉10枚位になったら、下の3～4枚を残して中心の茎を収穫する。



裏面は雑草図鑑 クサネム・オオアレチノギクを掲載しています。

農作業のページは取りはずして別に保存し活用してください。

No.328 平成30年8月21日発行

クサネム

水田、畦畔、湿地などに生えるマメ科の一年草。田の畦畔、水田内、湿った畑地などに発生する。種子により繁殖し、5月ころ発芽する。開花は7～10月で、種子は9～11月に成熟する。浅水の水田、湿った畑地や休耕田などに多発生する。水田転作ダイズ圃でも発生する。硬実のため、種子が一度に発芽せず、防除上やっかいである。



水田に侵入したクサネム

防除のポイント

イネ収穫物への種子の混入を避け、また次年以降の繁殖源を残さないこと。そのために、種子が成熟、落下する前に刈り取るなどして除去する。種子からの発芽時は除草剤に弱いため、この適期を逃がさずに除草剤などを使用する。



クサネムの葉 (生育後期)

オオアレチノギク

種子で繁殖する冬生一年草。落下した種子はすぐに発芽し、はじめ倒卵形の小さな葉を数枚放射状につける。その後しだいに葉数を増し、長い倒披針形の葉で大きなロゼットを形成して越冬し、翌春急速に茎が伸長する。8～10月ころに開花結実して、冠毛をもった種子を大量に散布する。道ばたや荒地など、やや乾燥した立地に多く、空き地や耕作跡地などに大群落をつくる。作物を8～9月ころに収穫し、秋耕を行なわない畑地が多い。



冠毛を付けたオオアレチノギク

防除のポイント

生育初期は除草剤の効果が高いので、生育初期に防除する。秋に出芽後、翌春遅くまで茎を伸長しないので、冬期中耕・培土も効果がある。圃場の周辺に多発生するため、開花前の刈払いや、茎葉処理剤を散布して侵入を防ぐ。



オオアレチノギク (生育初期)



オオアレチノギク (生育後期)